

|          |          |            |      |                |       |
|----------|----------|------------|------|----------------|-------|
| 教科・科目名   | 芸術 - 書道Ⅱ | 単位数        | 2 単位 | 年間授業時間<br>(予定) | 70 時間 |
| 対象学年・(組) | 2年(2～6組) | 使用教科書(出版社) |      |                |       |
|          | 必修       | 補助教材等      |      |                |       |

教科担当者

| 指導内容<br>【年間授業計画】 | 具体的な指導目標【年間授業計画】  | 指導内容<br>【年間授業計画】    | 具体的な指導目標【年間授業計画】   | 指導内容<br>【年間授業計画】   | 具体的な指導目標【年間授業計画】   |
|------------------|---|---------------------|--|--|--|
| 4月<br>仮名         | 書道Ⅰでの基礎・基本を元に蓬葉切れの料紙による臨書でさらに発展的に学習を深化させ流動美・構成美など日本独自の美意識によって誕生した仮名の美について理解を深める。  | 9月<br>篆刻            | 姓名印を2種作製させ白文と朱文の違いを朱文の枠の必要性を理解させ進行の早いものには撃辺や細の制作を進める。<br><br>白文はため、朱文は細めに又接筆部の処理方法を説明する。   | 1月<br>創作   | 唐詩、五言、七言絶句より題材を選択し、用具用材や作品の形成、紙面構成などを工夫させ作品を制作するよう指導する。                          |
| 5月<br>仮名         | 蓬葉切の代表的散らし書きを学ばせ創作への手がかりとさせる。<br><br>連綿による自然な流れ(軸の右ずれ)を解りやすく図式化し理解させる。  | 10月<br>篆刻<br><br>隷書 | 押印にも神経を使わせ印泥のつけ方押し方のコツを実際に押して体験させる。<br><br>印箋を作成し、鑑賞させ一連の作業工程の感想を考えさせ発表させる。<br><br>日常生活の中で目に触れる機会の多い書体であるが、どの様な用途目的で使用されているか考えさせる。 | 2月<br>創作   | 用具用材に変化を持たせる。<br>半紙に五言絶句を細字で半切に七言絶句を大字で色紙に自由課題を制作させる。                            |
| 6月<br>仮名<br>篆書   | 字幅について数字化させ広狭の変化をわかりやすく理解させる。<br><br>変体仮名の成立の意義を考えさせ、存在した時代背景を知り、現在一部でしか使用されていない理由を考えさせる。<br><br>日常生活の中でどのような形で使用されているか考えさせ篆書体に関心を持たせる。 | 11月<br>隷書           | 初めて体験する書体なので、生徒一人ひとりに逆筆、水平、波磔の一連の用筆法を範書し、横への動きを解り易く示す。   | 3月<br>創作   | これまで1年次より学習した全ての書体、書風を対象として、生徒一人ひとりの表現意図に応じた用具・用材をアドバイスする。<br>書体は5書体の内2書体を選択させる。 |
| 7月<br>篆刻         | 押印して印箋作成まで完全な形にするために印面への左文字の布字を徹底理解させる。<br><br>押し刀・引き刀両方体験させる。  | 12月<br>隷書           | 書体の特徴を踏まえた上で半紙を縦・横に変化させ用具用材による表現の違いや効果を考えさせる。  | <p>【評価の観点・方法】</p> <p>〔評価の観点〕</p> <p>1、作品の完成度 2、授業への取り組み方 3、授業態度 4、出席状態の4点をもとに評価する。</p> <p>〔評価方法〕</p> <p>作品点、取組み点、授業点、をもとに評価する。</p> |  |